

〔1〕イタリア・リネアペレ情報と我社のブランディングの取り組み

株式会社 山陽 ○保 隆二、塩田 和也、間嶋 正一

イタリア・リネアペレ視察における最新トレンド情報の報告と、それにおける我社のブランディングへの取り組み方を紹介いたします。内容として、MAKER'S LEATHER（つくり手の革）をスローガンとする山陽が、革の新しい可能性を探り、それを発信するためにスタートした新たな取り組みである「Leather Project」ならびに、その第一弾のヌメ革の25ベーシックを中心に紹介します。

〔2〕皮革建材プロジェクト

株式会社 Labo ○渡辺 喜夫、伊東 朋哉、香西 正子

木造住宅を供給する会社として、木の魅力をこれまで伝えてきた私たちは、皮革産業と出会った事がきっかけで、皮革の持つ風合いや木との相性に魅かれ、皮革を木と融合させ主に住宅の建材として利用する「皮革建材プロジェクト」を進めています。本プロジェクト初の試みとして、天然皮革と木によるドアを開発し、「里山住宅博 in KOBE2016」に出展しているモデルハウスにて披露しました。皮革素材は日本エコレザー基準(JES)認証取得した、人にとって安心・安全を保証したものを厳選して採用しています。地元の製革業者や革加工業者と提携し、皮革建材を全国のビルダーや建築家に発信し普及に努めます。

〔3〕コラーゲン繊維製造法とその利用について

兵庫県立工業技術センター皮革工業技術支援センター ○原田 修

コラーゲンは食品、化粧品、医療品等様々な分野で利用されている動物性タンパク質で、特に動物の皮に多く存在しています。コラーゲンの構造を壊さずに抽出した可溶化コラーゲンは棒状の分子構造で、紡糸の際に分子配向が容易になされ高強度な繊維を製造することができます。本報告ではコラーゲン繊維の製造法とその利用法についてご紹介します。

〔4〕地産地消を目指す手作り鞣製 鹿革と鹿毛皮の場合

～獣害対策によって捕獲した鹿の地域資源としての有効利用～

TFL ジャパン 株式会社 ○中村 泰久

兵庫県立工業技術センター皮革工業技術支援センター 松本 誠

獣害対策によって駆除したシカの有効利用に関して、食肉についてはジビエとして成功事例が多く見られるが、皮の利用については報告されている成功事例は多くありません。工業鞣製を行うためには、安定した原料皮を得るための一定要件の剥皮と保存処理、コストに見合う製造ロットにするための一定枚数の原料皮を定期的に供給される体制を確立することが必要である点はその理由ではないでしょうか。本報告では、少量の原料皮を生産地で最少の設備投資により準備し、産業廃棄物、副産物を容易に廃棄出来る条件で、鹿の毛皮と革を製造する試みについて報告します。

【５】検品・検査・手直し会社に寄せられたクレーム事例からの対策

株式会社エムビーフィールズ ○長谷川 正博

検品・検査・手直しの加工依頼を通して最近のクレーム事例を紹介します。それらの検品方法や補修方法を示し、そして、今後どのように改善し予防していけばいいのかを解説します。

【６】レザー製品の需要の変化に伴うレザーケアの今

株式会社エス・アイザックス商会 ○加藤 太、本田 哲典、角崎 昇

インポートのハイブランドへの一極集中により品質以上に知名度が求められた 1990 年代。ファストファッションの台頭から品質以上に値ごろ感が求められた 2000 年代初頭。そして現在は、品質を見極める目を持つ消費者が増えた事に加え、インバウンド需要の高まりから、高品質な『Made In Japan』製品が脚光を浴びています。さらに、皮革製品市場では、“品質の高いものを永く愛用する”という考え方が消費者に根付き、レザーケア市場もここ数年で急成長を遂げています。消費者が『良いものを永く愛用する』ため、レザーケアメーカーからの提案を、昨今のトレンドに合わせて紹介します。

【７】百貨店における皮革製品の品質苦情について

株式会社消費科学研究所 ○村井 大輔

(株)消費科学研究所は、百貨店の大丸松坂屋で商品苦情に関する消費者相談窓口（消費生活相談コーナー）や商品検査を運営しております。窓口に寄せられた商品苦情について、商品試験を担当する立場から、苦情事例を含めてご紹介いたします。

【８】革中の 6 価クロム生成抑制剤のご紹介

一般財団法人日本皮革研究所 ○大形 公紀

クロム革は無害である 3 価クロムを用いて鞣しを行っています。しかし、何らかの要因により有害である 6 価クロム (Cr6+) が生成される場合があります。欧州を中心に問題となっており、国際規格 ISO では Cr6+ の定量の際、加熱処理を行った後測定を行うことが推奨されており、そのことにより 6 価クロムの生成が促進されることがあります。このようなことから、革中の Cr6+ の抑制が世界で注目されており、当財団では 3 種類のアプローチから Cr6+ の抑制に成功しました。この効果を利用して Cr6+ の生成抑制剤を開発しておりますのでご紹介いたします。

【９】革、毛皮の顕微鏡（デジタルマイクロスコープ・走査電子顕微鏡）による観察と鑑別法

（地独）大阪府立産業技術総合研究所 ○道志 智、陰地 威史

皮革の動物種の判別方法として、表面の毛穴配列や断面の繊維構造を観察する方法が多く用いられています。試料を観察する際のテクニック等について、実際にデジタルマイクロスコープを使用し実演致します。試料をお持ち頂ければ、可能なものについては、その場で観察することもできます。また、毛皮の動物種の判定方法についても紹介致します。

*講師の敬称略 *○印：発表者

*時間割と発表順序はあくまでも予定です。都合により変更になることもあることをご了承下さい。